

学校力向上プラン【計画書】

堺市立土師小学校
校長 坂元 繁夫

中学校区におけるめざす子ども像　○積極的・主体的に学び続ける子　○自ら学びともに考える子

令和7年度 重点目標【一人ひとりの子どもの成長を育む学校】

①一人ひとりが『自己を発揮できる学習』をめざして　②一人ひとりが「自分や友だちの良さを感じる」　③一人ひとりが安全に過ごし、体を鍛え、生活を振り返ることができる児童の育成　④一人ひとりがよりよい生活のために、考え行動することができる児童の育成
の4つの柱(学力向上・人権教育・健康教育、安全教育・生徒指導)を軸に教職員が協働し安心・安全な学校になるよう、学校全体で課題解決に努め学校力を高めていく。

学びの現状・ 令和6年度全国学力・学習調査では、算数科・国語科ともに全国平均をやや下回る結果となっている。「思考力・判断力・表現力」の伸長のために、それらを支える「知識・技能」についても確かな定着に取り組んでいきたい。今年度は校内研究教科を算数科に変更して、子どもが主体的に学習に向かうための指導の工夫、思考力・判断力・表現力を高める指導に取り組んでいきたい。令和6年度の学校アンケートでは、「問題を解くときに、これまで習ったことが使えないか考えている」という項目が低かった。既習の学習を結びつけながら学習の深まりをめざしつつ、個別最適な学び・協働的な学びの一体化の充実に取り組むなかで子ども自身が学びを進め、自分自身のものにできるようになるように取り組んでいきたい。	「豊かな心・健やかな体」の現状 令和6年度学校教育アンケートで「自分にはよいところがある」という項目が低かった。一方で「周りに困っている子がいるとき、自分にできることはないか考えている」の項目は高かった。自分以外の子に対する優しさや心遣いを大切にしつつ、自分自身への肯定感をもてるように取組を進めていきたい。体力向上については、引き続き縄跳び週間などの取組は継続しつつ、普段の体育の授業の在り方について共通理解を深めていく。生活調べや年間一回の各学年での食育の授業は引き続き今年度も取り組む。
--	--

項目	中 目 項	具 体 目 標	評価項目（取組、成果・状態） （●重点とする取組 ★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価 方法	評価 時期	進捗確認（～12 月）		達成状況（年度末）			
			自己評価		学校関係者評価							
確かな学力	主体的に学び続ける子	学力向上	【学習内容の定着】 子ども一人ひとりが学ば力を高め、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、授業における個別支援などの取組を行う	・「勉強のことでわからないことがあると、自分で調べたり、友だちや先生に聞いたりしている」肯定80％ ・学習内容の定着に向けて、ドリルパークに積極的に取り組む。	実施状況	3学期						
			【問題解決力の育成(問題解決的な授業の推進)】 さまざまな授業で問題委解決的な学習を学校全体で推進し、子どもの問題解決力を育成する	・「問題をとくときに、これまでに習ったことが使えないか考えている」肯定80％ ☆「友だちの考えを聞くときは、新しい考えやよりよい考えを探しながら聞いている」肯定80％ ☆ステップアップ研修や若手研等の研修において、指導技術について共通理解する。	学 校 アン ケ ー ト	3 学 期						
		めざした授業改善 個別・最適な学び、協働的な学びの実現を	●【一人1台 PC の活用】 さまざまな場面で児童用タブレットを使い、情報活用能力の伸長を図る	・「週3回以上授業で児童がPCを活用している」(80％) ・「定期的に持ち帰り、課題配信による家庭学習を実施している」(持ち帰り回数)	学 校 アン ケ ー ト	3 学 期						
			【主体性の育成】 主体的に授業に参加し、学習内容を身につけていくために、子どもの問題意識を大切にした授業づくりを進めていく	・「算数の授業は好きですか」肯定的75％ ・「授業では、めあてについて考えたり、ノートに書いたりしている」肯定的80％	学 校 アン ケ ー ト	3 学期						
			●【研修テーマ達成に向けた取組】 「一人ひとりが『自己を発揮できる学習』をめざして」のため、校内研究授業を全6回(各学年1回)実施し、子ども理解や指導法について全教員で共有し改善を図る。	全学年の校内研究授業実施 研究授業の成果と課題の共有	実 施 状 況	3学期						
豊かな心・健やかな体	たくましく 生きる子ども	体力向上	【授業づくり 体力づくり】 体育の授業での「準備運動」について職員間で共通理解をし、体育授業の充実を図ることで体力づくりに取り組む。※全児童を対象にリズム縄跳びの取組も行う。	「外で体を動かすことは好きですか」肯定的な回答 90％以上	学 校 アン ケ ー ト	3 学 期						
				種目ごとに準備運動があることを共通理解し、授業実践を行う	実施状況							
		命を守る	【防災教育】 年間4回の避難訓練や総合的な学習の時間での取組で子どもの防災への意識を高める	「火事や地震があったとき・不審者が入ってきたときにどのように行動するかわかっている」肯定的な回答80％	学 校 アン ケ ー ト	3 学 期						
	生活をよりよくしようとする子	安心安全な学校・学級	【いじめ】 いじめ防止のため一人ひとりにあった「居場所と出番」がある学級集団をつくる。いじめが起こった際には、いじめ対策基本方針にのっとり適切に対処する。	いじめアンケートを1年に3回、同じ日に実施し、アンケートの内容について子どもの思いをたずね、すべての事案に対応する。100％	実施状況	3 学 期						
			●【気になる子ども・不登校対応】 普段から子どもの話を聞き、不登校防止に取り組む。教育相談を申し込みやすい環境づくりを推進する。	気になる子どもの状況を子ども支援委員会で共有し具体的な支援や教育相談につなぐ。	実施状況	3 学 期						
			【よりよい生活】 「土師のよい子」を合言葉に、規律ある学校生活に取組む。	「学校のきまりを守っている」「相手の気持ちを考えて行動している」ともに、80％	学 校 アン ケ ー ト	3 学 期						

	自ら 自他を認め合い、協力する子	違いを認め合える仲間づくり	●【人権教育】 自尊感情の高まりや他者理解につなげるために、友だちや周りの子の違いを認めたり、良さを感じたりするだけでなく、自分の良さを感じる取組を行っていく。	「自分には、よいところがあると思いますか」70％ 「友だちや周りの子の良いところを見つけることができる」70％	学校アンケート	3学期							
			【特別支援教育】 ちがいを認め、他者への思いやりをもつように、互いに尊重し合うことができる子どもを育成する。	「まわりにこまっている人がいる時、自分にできることはないかを考えていますか。」80％	学校アンケート	3学期							
地域	地域を愛する子	地域・協働	【学校教育の周知】 学校ホームページ、totoru・校報等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	学校HPを毎日更新、各学年で1週間に1回以上更新できるように取り組んだり校報で学校の様子を伝えたりする。	実施状況	3学期							

校長より(年度末)	学校関係者評価から(年度末)